

## ヨシ群落縁辺部における仔稚魚等採捕調査結果

井出 充彦

### ◆背景・目的

ヨシ群落縁辺部において、外来魚および在来魚の仔稚魚等の発生・生息状況を把握するため、曳き網を用いたヨシ巻き方式によるヨシ帯縁辺部での魚類採捕調査を行った。

### ◆成果の内容・特徴

- 琵琶湖北湖6地先、南湖2地先のヨシ群落の縁辺部で、平成16年5月から7月に合計6回、小型曳き網を用いたヨシ巻き法により魚類等の採捕調査を行った。曳網は各地先1調査あたり3回とした。
- その結果、北湖の場合、合計尾数ではコイ科魚が6,255尾(62.4%)と最も多く、次いでワカサギの2,576尾(25.7%)であった。コイ科魚はその内の81.9%がカネヒラであった。合計重量ではコイ科魚類が525.2g(39.6%)と最も多く、次いでオオクチバスが303.8g(22.9%)、ワカサギが134.1g(10.1%)であった。
- 南湖の場合、合計尾数ではオオクチバスが3,640尾(97.0%)と大部分を占めた。合計重量ではブルーギルが968.4g(67.0%)と最も多く、次いでオオクチバスが431.3g(29.9%)の順であった。

### ◆成果の活用面・留意点

- 各魚種の産卵・繁殖期である5~7月に、本調査を毎年行い比較することで外来魚を含む各魚種の仔稚魚等の発生状況や生息動向を把握できる。

